

**おにぎりを片手に世界の中であなただからこそ出来る
事があります。**

この国、日本では古くからお祭りや結婚式、災害時やお葬式など嬉しい時や悲しい時、その“気持を分かち合う場所”として『炊き出し』を行ってきました。この食を通じて時間や空間を分かち合い、喜びを共有し、辛い気持ちを少しでも癒し、和らげるという文化は日本独自の習慣です。

人と人が出会うという事はどういうことでしょうか。

今、世界中で起こっている様々な問題を見ると、そこには人種や宗教、イデオロギーや経済格差といった違いが原因となっている事が分かります。

この“違い”というものを『善か悪か』とか『白か黒か』という切り口で問うのではなく、そのままを認めるということでは新しいものは生まれません。この日本は二元論ではなくそういった『相対論』をベースに生きている人々がいる国なのです。

そして、この“違い”を対立要因ではなく認め合うきっかけに出る方法があります。

それが文化交流です。知らない食べ物に出会った時、知らない風習を知った時、初めて見る踊りや衣装、町並み、自然、そしてその地に暮らす人々…。ワクワクした気持はもっとお互いを知る絶好のチャンスです。

おにぎり隊はこの文化という切り口でおにぎりを最高に美味しく握れ、かつ日本の文化の中心的な担い手である65歳以上の女性、いわゆる『おばあちゃん』を先頭に、社会人から若い学生まで含む世代を超えた隊員構成で活躍しようというユニークな活動を行っています。

参加のきっかけは人それぞれだと思いますが、何か直感的なモノを感じたあなたはもう『おにぎり隊員』です。

テーマは、“友達をつくる”。

「ここに友達がいる…」世界地図を広げた時、新聞やTVのニュースを見た時、それが自分事に思える。大切にしたい友や土地がそこにある。この事はこれからの世界を形作る大切なキーワードです。そしてこの日本は世界の全ての国・地域と国交があり、我々は全ての国に入学可能なパスポートを持つ、海外との交流活動を最も推進しやすい国民なのです。

世界の中で日本人だからこそあなただからこそ出来る事が数多あります。

一つの出会いの先に何が来るのか。5年後、10年後、30年後…。

“おにぎり隊が作る縁” この可能性を未来への羅針盤に活動を続け参ります。

日本おにぎり隊
実行委員長 那須 勲

隊員募集

■正隊員

- ・梅干隊員
- ・65歳以上の女性隊員。
- ・年会費：5,000円/口。1口以上。
- ※遠征参加者は遠征費が別途必要。

■一般隊員

- ・鮭 隊員（遠征隊員）：梅干隊員以外の遠征参加隊員
- ・年会費：5,000円/口。1口以上。
- ※遠征参加者は遠征費が別途必要。

遠征費

8泊10日 28万円(予定)

旅費、宿泊費、運営事務費込み

日本おにぎり隊実行委員会

- 顧問 問： 中澤 弘幸 (煎茶道 黄檗売茶流家元)
 中野 正志 (衆議院議員)
 古賀 一成 (衆議院議員)
- 実行委員長： 那須 勲 (ナスインターナショナル代表)
 副実行委員長： 江部 正紀 (日々輝塾 塾長)
 実行委員： 北中 正紀 (株式会社こふれ代表)
 副事務局長： 古賀 円 (議員秘書)
 大矢 中子 (コンディションイエロー役員)

申込方法と流れ

1. 同封の申し込み用紙に必要事項を記入して、下記に郵送またはFAXでお申し込みください。
2. 参加決定ののち、下記口座に参加費用をお振込ください。
3. お申し込み後の参加取り消しについてはキャンセル料を申し受けます。
4. 本隊の趣旨にご賛同いただき、寄付・物資提供をいただけるという方は下記へお問い合わせください。

連絡先・振込先

詳細はホームページで

<http://www.onigiritai.com>

メールアドレス info@onigiritai.com

郵便振替口座 **10210-98327781**

口座名称 **日本おにぎり隊**

(有)ナスインターナショナル内

「日本おにぎり隊」事務局

〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-1-6-701

TEL&FAX 045-316-8783

日本おにぎり隊 エストニア遠征



旅のスケジュール

日程	摘要
【1日目】 2008年10月4日(土)	羽田発、関空経由、ヘルシンキへ (直行便：約10時間) (知ソ：泊)
【2日目】 2008年10月5日(日)	旧市街自由散策 少女合唱団エレルヘイン訪問交歓会 (知ソ：泊)
【3日目】 2008年10月6日(月)	料理専門学校・日本の食文化講習・実演 (知ソ：泊)
【4日目】 2008年10月7日(火)	タルト大学キャンパス散策 高齢者デイセンターにておにぎり交歓会 ラクヴェレへ移動後自由行動 (ラカヴェレ：泊)
【5日目】 2008年10月8日(水)	料理専門学校日本の食文化講習・実演 午後 日本月間展覧会など自由に市内・近郊 観光 (ラカヴェレ：泊)
【6日目】 2008年10月9日(木)	相撲世界大会協賛イベント日本文化週間 おにぎりプレゼンテーション(スーパーマーケット) イベント終了後、ホテルへ きものショー準備・リハーサル・本番 (ラカヴェレ：泊)
【7日目】 2008年10月10日(金)	タリンへ移動 (約1.5時間) 途中ラヘマ国立公園・歌の原 昼食タリン 旧市街 ヴィリニユスへ移動 (ヴィリニユス：泊)
【8日目】 2008年10月11日(土)	カウナス観光 (ヴィリニユス：泊)
【9日目】 2008年10月12日(日)	ヴィリニユス市内観光 空路、ヘルシンキへ(直行便：75分) 着後、乗継まで空港内にて待機 空路、帰国の途へ(直行便：約9時間20分) (機内泊)
【10日目】 2008年10月13日(月)	成田、関空着後、それぞれ解散



グラミー賞受賞のエストニアを代表する少女合唱団エレルヘイン

旅の見どころ

タリン

フィンランドの南80kmに位置するエストニアの首都。中世の面影を色濃く残した旧市街はタイムスリップした世界のような。タリンの料理専門学校の若者に和食を伝授します。



タルト



創立375年を誇るタルト大学を中心に広がる、アカデミックな町タルトでは、高齢者デイセンターで元気なお年寄りと一緒におにぎりを握ります。

ラクヴェレ

日本文化に関心の高いこの町で行われる相撲大会。世界中から集まる人々に、おにぎりの美味しさを伝えます。幻想的な中世のお城訪問も魅力です。



ヴィリニユス



ちょっと足を伸ばして、リトアニアへ。首都ヴィリニユスにはまた違った中世が残されています。カウナスでは6000人のユダヤ人を救った杉原千畝氏の記念館も見てみたいですね。

エストニアについて

1918年に民族の独立を宣言して90周年、その後の半世紀に及ぶ長いソ連の支配下から開放されて17年。忍耐強く温厚なエストニアの人々は、今、ヨーロッパの一員として自信と誇りを持って前向きに生きています。苦しみを乗り越えてきたお年寄りにも、その時代を知らない若者たちにも、笑顔があふれる国になりました。

エストニアを訪れた人々は、まず中世の町並みを歩いて「おとぎの国のような」と表現し、その居心地の良さに安堵感を覚え、個性的なアートに刺激を受け、あふれる自然に囲まれていることに幸せを感じ、日ごろ忘れかけている大切なものに気づきます。そして、何よりも、心温かい現地の人々のおもてなし精神に感動して、もう一度行きたいと思うようになるようです。北欧・バルト海の国、エストニアはそんな国です。

温かいおにぎりでの心の交流を図り、お茶、きものショーでエストニアの人々を魅了するような日本文化紹介をご一緒にやりませんか？

日本エストニア友好協会
荒井秀子



タリンの町並み